

# 農作物（果樹）の雪害事後対策（第3報）

平成26年2月21日  
果樹技術普及センター

2月14～15日の積雪により、農業施設や農作物に甚大な被害が発生しているが、積雪量が多いために、現在も近づけない圃場がある。

平成26年2月21日10時35分気象庁予報部より発表された2月22日～28日までの1週間は、高気圧に覆われて晴れる日が多く、降水量は平年に比べて少ない見込みで、明日から1ヶ月間の天候は、気温、降水量、日照時間ともに平年並みの予測となっている。

圃場の雪解けも進んでくれることを願いたいですが、休眠期の作業も大詰めとなっているので、露地においても、次の項を参考に圃場の復旧作業を開始していただきたい。

## パイプハウス

- ・燃料の流出や電気の漏電をよく確認し、周辺に流出しないように注意する。
- ・倒壊し、危険なビニールハウスの撤去は、雪解けを待って行う。
- ・一部破損したハウスでは、速やかに破損箇所の修復を行い、農作物の保温・加温に努め、ハウス内が氷点下にならないように注意するとともに、今後の降雪や春先の強風に備えて、破損・変形した骨組みの修復や補強、撤去作業を計画的に行う。

## 露地ブドウ

- ・棚の倒伏した園では、樹体の裂傷等の被害を確認し、主幹部等に亀裂が発生している場合にはマイカー線等による補強を行ってから、支柱等を利用し樹体を持ち上げる。

なお、傷口にはビニール等を巻き付け雨水がしみこまないようにするとともに、マイカー線等でしっかり結束する。

- ・積雪量が多いため、被害の無い園でも、凍寒害対策として、肥料袋等を主幹部分に巻き付け樹体を保護するとともに、樹もとの防寒対策（敷ワラ等）もあわせて実施する。

ブドウ棚等を点検し、支線の緩みやアンカーの浮き上がりが見られる場合には、早急に補修・補強を行う。

### 露地立木果樹

- ・苗木圃場では、融雪時の雪の沈下による芽の欠損を防ぐため、雪に割れを入れる。
- ・主枝・亜主枝等に亀裂が発生している場合には、マイカー線等による結束とビニール等の巻き付けを行う。
- ・枝折れが発生している場合には、枝折れ部分を切除し切り口に癒合剤を塗布する。
- ・これから休眠期防除を行う場合は、芽の生育と使用時期に注意し、散布が3月になってしまう場合は、必ず指導機関に相談する。
- ・オウトウで、今後融雪が進まない場合は、野鼠の発生に注意し、幹の周りを広めに除雪し、根ぎわをキレイに片つけておく。

### 融雪対策

- ・積雪が特に多い地域や、除雪した雪が入り口に高く積まれている園、北面傾斜で雪が溶けにくい園では、融雪が進まないことが予想されるので、圃場の入り口や、圃場内の作業用路の確保のため、機械による圧雪や雪かきを行い、休眠期防除や管理作業のスタートに備える。
- ・若木園では株際を中心に雪かきを行う。
- ・パーク堆肥などのように、比較的細かい堆肥を10aあたり200kg程度散布するか、モミガラ燻炭を300リットル程度散布する。